会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（中海岸自治会②）
2　日時	平成 30 年 9 月 16 日（日）14：00～15：30
3　場所	中海岸自治会館
4　出席者	（資源循環課）森岡担当主査、永井主任 （環境事業センター）林所長補佐、安齋担当主査、井上技能労務統括主査 （中海岸自治会②）参加人数：5 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●今後も意見交換会を開催し、啓発を強化するとのことだが、参加する方はごみに関心のある方なので、そうでない方に対してのアプローチが重要かと思う。意見としてお伝えしとく。また、資源化可能なものが、ごみとして排出されているとのことだが、その量の推移はどうか。 →家庭ごみの中に資源化可能なものが､全体の 25%を占めていることがわかっており、まだまだ減量化、資源化の余地があると考えている。特に資源化可能な紙類の割合が高く、その適正な分別が課題である。 ●紙を適切に資源に回せば、ごみの減量、資源化が図れるとのことであるが、不適切な分別による、紙ごみとは具体的にどんなものか。 →本日お配りした､「知ってる？紙の分別」に記載している､「燃やせるごみに捨ててしまいがちな紙」のとおりである。 ●本来ごみ処理については、税金で賄うべきではないか。 →茅ヶ崎市は､平成 32 年をピークに人口が減少し､市税収入の減少が予想されている。また、福祉にかかる経費などが少子高齢化に伴い増加していく。そのような財政状況のなかで、将来にわたり、安定的なごみ処理を行うため、有料化により、ごみ処理経費の一部を手数料として負担していただくことを考えている。 ●戸別収集を実施していない市は、なにか理由があるか。 →実施しなかった理由として考えられるのは、コスト面である。有料化で得た財源より、戸別収集でかかる費用のほうが大きくなることを理由に断念したのではないかと考えられる。茅ヶ崎市においては、現在試算中であるが、その費用が判断のポイントになると考える。 ●戸別収集については、他市に比べて道が狭いので、収集を担当する職員の負担が増大するのではないか。 →現在、戸別収集を実施した場合のルートを検討している。少しでも職員の負担が軽

	減できるような工夫が必要と考えている。 ●今のステーション方式を合理化する仕組みとして、集積場所の数を減らすなどの試みがあってもよいのではないか。 →集積場所の管理は、利用者を始め自治会にお願いをしている、集積場所の数を減らすことは利用者間か自治会内で合意が前提であるが、可能であると考えるが、その調整は相当難しいと考えられる。ごみの種別によっては、その収集方法を見直すことなどは考えられる。 ●資源物の集積場所を設けるのに 30 世帯を確保するが難しいので、戸別収集は賛成である。資源物については、戸別収集の対象になるか。 →集積場所の管理が上手くいっているところとそうでないところがあるので、地域によって様々な意見がある。対象品目については現在検討中であるが、藤沢市では、ごみから始まり、現在では資源物もその対象としているところである。 以上